

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119：7、エペソ人 6：5「真心から」、マタイ 13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→②ダイナミックな多角的、立体構造：

神の視点、人類史に先立って配備された神の考案、天地宇宙の全被造物は神を証し

→③古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：

過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

→④聖書自体が成就を証しする真の神の預言

使徒パウロの宣教 その3

ガラテヤ書

3章

：1「…十字架につけられたイエス・キリストが…はっきり示されたのに…」（下線付加）：

*ガラテヤ人たちの目、律法のほうにそれてしまった

*ヘブル語（旧約）聖書にすでに記されていることへの言及

「だれがあなたがたを迷わせたのですか」：

*真理の把握を失った

2節（1）あなたがたはどのようにして聖霊を受けたのか？

3節（2）あなたがたはどのようにして聖められるのか

*割礼派のユダヤ人たち、信仰（一つの道）で始め、働き（ほかの道）に移ることを奨励

4節（3）あなたがたの苦しみは無駄だったのか？

*ガラテヤ地域で、使徒や信徒たちが経験した迫害を振り返っての問い

*パウロは、第一次宣教旅行の帰途、ガラテヤの回心者たちに、

キリスト者として苦しむことになることを警告していた →使徒の働き14：21-22

5節（4）神は何を基に、奇蹟を行われたのか？

→使徒の働き14：3、：8-11

*ガラテヤの人々がパウロのメッセージ、一救いに導く神の言葉— に耳を傾けた結果、神、信じる人たちに奇蹟をもたらされた

：6「アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです」：

*割礼派のユダヤ人たち、自分たちにはヘブル語（旧約）聖書がある、と主張

*パウロ、それよりさらに何世紀かさかのぼって、アブラハムに焦点

*アブラハムの信仰が神に義として受け入れられ、割礼を受ける前に義と認められた

：8「聖書は…アブラハムに対し…前もって福音を告げたのです」：

→創世記22：5-18

*アブラハムが信仰によって救われたように、

アブラハムの子らはみな、同様に信仰によって救われる

神が息吹を吹き込まれた福音

☆パウロ、あたかも神が語っておられるかのように御言葉（聖書）に言及

☆聖書の絶対的、全面的な靈感と権威

：9「…信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受ける…」：

*信仰によって神に応答する者だけが信仰義認の祝福を受ける

：10「というのは、律法の行いによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです…」：

*すべての人はどこかで掟を破っているので、すべての人が呪いの下に置かれている

聖書

- : 11 「…**神の前に義と認められる者が、だれもない…『義人は信仰によって生きる』**…」 :
 ＊ハバクク書2：4が人類史に及ぼした影響は絶大
 ＊マルティン・ルター、この聖句によって開眼、1517年10月31日、ローマ教会に抗議して、
 ヴィッテンベルク城内の教会の扉にラテン語で書いた九十五箇条の論題を打ちつけた
- : 12 「**しかし律法は、『信仰による』ではありません…**」 :
 ＊律法の一つでも守ることができなければ、すべてを犯したことになる ヤコブ2：10
- : 13 「**キリストは…私たちが律法ののろいから贖い出してくださいました…**」 :
 ＊希望は、私たちが贖ってくださったキリストだけにある
 「**のろいから贖い出してくださいました**」 :
 ＊使用されているギリシャ語は、身代わりのいけにえの強い宣言
 ＊「**律法の呪い**」は、罪人から罪のない方キリストに移され、人々は呪いから解放された
 「**木にかけられる**」(下線付加) :
 ＊木材の意、絞首台、十字架等
 ＊キリストの十字架は、御子が神の呪いの下に置かれたことの証拠

いつ、キリストは「**私たちのために呪われたもの**」となられたのか？

⇔十字架上での最後の三時間の間

- : 14 「…**アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり…**」 :
 ＊キリストの贖いの御目的
 1. 信じるすべての者に約束された信仰義認の祝福
 2. 信じるすべての者が約束の聖霊を受ける

ヘブル語(旧約) 聖書からの引用

- (1) 6-7節 創世記15：6から
 ☆アブラハムはどのようにして救われたのか？ 信仰によって！
- (2) 8-9節 創世記12：3から
 ☆アブラハムが信じた福音は、
 「神がアブラハムを祝福し、アブラハムを力強い民にされる」という良き知らせ
 ☆アブラハムが信じたこの良き知らせは、今日の恩寵の完全な福音ではなかった
- (3) 10節 申命記27：26から
 ☆律法は救うのではなく、呪う
- (4) 11節 ハバクク書2：4から
 ☆「**義人は信仰によって生きる**」
 →ローマ人1：17、ガラテヤ人3：11、ヘブル人10：38-39
- (5) 12節 レビ記18：5から
 ☆かつて律法を行うことで救われた者はだれもない
- (6) 13-14節 申命記21：23から
 ☆キリストは木、—十字架—の上で死に、申命記に記された言葉を成就してくださった
 ☆神がアブラハムに約束された祝福は今、キリストの贖いを信じる異邦人に適用される

- : 15 「…**人間の場合にたとえてみましょう。人間の契約でも、いったん結ばれたら…**」 :
 ＊割礼派のユダヤ人たちは、ほかの論法で、議論を吹っ掛けたかもしれない
 ＊しかし、パウロ、この世の契約が勝手に無効にされたり、変えられたりすることができないように、神の約束も不変であると宣言
 ＊信仰による義認の祝福は永久で、律法によって変えられることはない
- : 16 「**ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました…**」 :
 ＊強調は「**ひとりの子孫**」、単数
- : 17 「…**先に神によって結ばれた契約は、その後四百三十年たってできた律法によって…**」 :
 ＊信仰の永続性の原則を適用

聖書

- : 18 「なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約束によるのではないからです…」 :
- * 約束（契約）と律法は基本的に異なった性質
 - * 信仰義認による相続は、信じる者への無償の贈り物
 - * 神の救いの方法は、信仰を通しての恩寵
- : 19 「では、律法とは何でしょうか…違反を示すためにつけ加えられたもので…」 :
- * 律法は罪を取り除くためではなく、表すために与えられた
- : 20 「仲介者は一方だけに属するものではありません。しかし約束を賜る神は唯一者です」 :
- * 仲介者は二人の当事者間の契約をとり持ち、両者に責任がある
 - * しかし、「約束」は仲介者を経ないで、直接、人に与えられた
このことは、神だけがそれを成就する責任を持っておられるということである
- : 21 「…律法は神の約束に反するのでしょうか。絶対にそんなことはありません…」 :
- * 神は、律法と約束の両方を与えてくださったが、両者の目的は違う
 - * 生命を与えることは律法の目的ではなかった
 - * 律法が掟を守る人々に約束した生命は、地上での一時的な祝福への言及
 - * 律法と約束、両者の調和を知るには？
† 律法の役割を正しく認めるときそのことが分かる
† そのとき、律法は福音への道を備えるために与えられたということに気づかされる
- : 22 「聖書は、逆に、すべての人を罪の下に閉じ込めました…」 :
- * 律法は、全世界が罪を犯した囚人であることを宣言した
「信じる人々に与えられる…」 :
 - * 神は、自らの力、知恵、すべてに尽きた人々を助けられる
- : 23 「信仰が現れる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ…」（下線付加） :
- * 「イエス・キリストを信じる信仰が現れる前」の意
 - * 信仰による義認は、キリストがこの世に顕されるまでは、まだなかった
- : 24 「…律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となり…」（下線付加） :
- * 家庭教師
 - * ギリシャ人やローマ人の間では、信頼のおける奴隷に、上層階級の家庭の子どもの人生と道徳を監督する義務が委任された

モーセの律法

☆三つの部分

1. 命令：神の義なる御旨を表現
2. 裁き：イスラエルの社会生活を支配
3. 儀式

☆律法の授与からイエス・キリストの死に至るまでの期間、神がご自分の民に敷かれた体制

モーセの律法とキリスト者の律法

☆律法と恩寵は対照的

神は、律法の下で人々に「義」を要求された
恩寵の下では「義」をご自身が与えてくださる

☆律法は、それ自体は聖で、正しく、良いもの、霊的なもの　ローマ人7：12-14

☆律法は、有罪であった全世界にもたらされ、非難、死、神の呪いを下した

☆キリストは律法がもたらした呪いを担い、信じる者を呪いと律法の支配から贖ってくださった

☆恩寵の新約の下では、信徒は神の御旨に従順であることが要求される

☆新しい「キリストの律法」に生きるとは、

律法の義が、内住の聖霊を通して信徒のうちに成就するということ

☆モーセの律法は「義の訓練」として依然として有効　テモテ第二3：16-17

: 25 「しかし、信仰が現れた以上、私たちはもはや養育係の下にはいません」 :

- * 養育係の権威は、「子ども」が成人になったとき、終わった
- * 人々がキリストを信じる信仰によって義と認められる時代が到来するまでの、律法の機能になぞらえることができる

聖書

律法とは何か？

1) 19-20節 律法は一時的で、ただイスラエルにだけ与えられた

☆神は、道徳律を異邦人の心に書き記され、すべての人には「良心」が与えられた
ローマ人2：14-15

☆儀礼上の掟は、異邦人には与えられなかった

☆律法は、アブラハムへの約束にとって代わるものではなく、「加えられた」

2) 21-22節 律法は人に罪を自覚させるが、人を罪から救うことはできない

☆罪を表すことによって、罪人に、神の約束に信頼するよう促すのが律法
⇔すべての者は同じ方法で救われる必要

3) 23-29節 律法はキリストのために道を備えた

☆国家形成の初期、幼少期にあったイスラエルにとって、律法は神の養育係であった

☆キリストが来られ、福音の完全な啓示がユダヤ人と異邦人ともに与えられるまで、
律法は、ユダヤ人をふさわしく制御、感化した

信徒の現在の立場

☆パウロ、26-29節の段落で、律法以降の変化に言及

26節 ①キリストを信じる者はみな、神の子になる

★一人称「私たち」から二人称「あなたがた」に変化
パウロ、焦点を個人的にガラテヤの信徒に向けた

★律法の制度下では、律法の監督下にある者はみな、「子ども」とみなされた

★キリストが来られた今、信徒たちは信仰によって「成人した子」で、
もはやユダヤ人の奴隷の管理者の下には置かれていない

詩篇69篇

☆キリストの生涯を描写 →ヨハネ8：41 敵対する者たちの言葉にヒント

：27「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな…」(下線付加)：

★「神の子らの地位に高められた」の意

キリストの名によるバプテスマによってもたらされる、キリストとの合体

★すべての信徒、キリストのからだ「教会」として一つ コリント人第一12：12-13

洗礼

☆私たちは、キリストにあって、信仰によって義とされる

☆洗礼は、公での信仰告白であり約束、キリストへの忠義の誓い

☆洗礼は、自分自身にもたらされた変化を象徴的に表す行為

☆ガラテヤの信徒ら、キリストの義の衣を身に着けた

☆キリストの義の衣は、神の御前での完全な受け入れを保障

28節 ②すべての信徒は互いに一つとされたので、人の差別、区別は意義を失う

★ここで、「ギリシャ人」は全異邦人を代表

29節 ③キリストを信じる者は、アブラハムの子孫である

★キリストにある信徒はアブラハムの子孫の一部、アブラハムの約束の相続人となる

★アブラハムと血縁関係にある生まれつきの子孫の中に、「ユダヤ人の信じる残りの者」
がいる

★「信じた異邦人」で、アブラハムの霊的な子孫

★無千年期論者の主張

1. ユダヤ人に与えられた国家の約束を異邦人信徒が相続する

2. 教会は「新しいイスラエル」である

これらはパウロの教え(15-29節)に、ここに書かれていないことを読み込む偽りの教理

律法の意義

1) 罪に違反の性質を与えるために加えられた

☆律法は個人的な罪悪感を加えた

☆律法は人の性質の根深い罪深さを証明

2) 全世界を神の裁きに服させ、人はだれも神の栄誉を受けることができないことを教えた